

〔北広島市〕 東部中学校区の取組



東部小



北の台小



東部中

1 中学校区の概要（令和元年度）

詳細は学校HPをご覧ください

- 学校名（児童生徒数）：北広島市立東部小学校（370人）、北広島市立北の台小学校（384人）、北広島市立東部中学校（444人）
- 導入状況（導入時期）：小中一貫型小・中学校（平成30年4月）
- 施設形態（学年段階の区切り）：施設分離型（6－3）
- 取組のポイント
 - (1) 目指す子ども像の設定・共有
 - ・各種調査の結果分析を生かした実態把握を通じた目指す子ども像の設定及び評価の実施
 - ・小中一貫教育推進に向けた共通認識の醸成
 - (2) 9年間を通じた指導計画の作成
 - ・中学校英語担当教師による小学校への乗り入れ指導の実践に基づく系統性を生かした外国語活動・外国語科の指導計画の作成
 - (3) 特色ある取組
 - ・保護者・地域住民との協働体制の確立に向けた学校教育説明会及び地域懇談会の開催

2 取組の概要

- 各種調査の結果分析を生かした実態把握を通じた目指す子ども像の設定及び評価の実施
 - ・全国学力・学習状況調査や学校評価など各種調査結果を小・中学校合同で分析し、中学校区の児童生徒の学習状況や課題を把握するとともに、義務教育9年間を見通した目指す子ども像を設定し、学校・家庭・地域で共有した。
 - ・小中一貫教育小中合同部会を組織し、定期的に児童生徒の学力や体力等の状況を共有するとともに、目指す子ども像の実現状況等を協議し、各取組の検証・改善を推進した。
- 小中一貫教育推進に向けた共通認識の醸成
 - ・小中一貫教育の取組の中核となる「東部スタンダード」を設定するとともに、全教職員の共通理解の下、「学力向上」「体力向上」「豊かな心の育成」「大志学・総合・特活」の具体的な4つの取組を中学校区全体で推進した。

教育課程のつながりで育む東部の子

校区でめざす
15歳の子ども像

- ◆ 夢に向かって進路を選択し、胸を張って卒業式を迎えている。
- ◆ 自分の心をコントロールし、弱音を吐かず、日々努力している。
- ◆ 集中して授業を受け、自分の考えを自分の言葉でしっかりと伝えている。
- ◆ 部活動に熱中している。
- ◆ 人の気持ちを考える優しい言葉や、感謝の気持ちをもって下級生を大切にしている。

東部の
学校の
教育目標

- 東部中 … 夢をもち たくましく ～心を磨き、知性を高め、身体を鍛え、共に生き～
- 東部小 … 私たちは 仲よく 強く 明るく伸びる 東部のよい子です
～仲よく助け合う子・よく考えてする子・元気で健康な明るい子・進んで仕事をし～
- 北の台小 … 未来に向かって やる気いっぱい やさしいいっぱい ともにかがやけ 北の台っ子
～思いやりのある子・最後までがんばる子・進んで学ぶ子・たくましく生きる子～

【目指す子ども像の設定】

東部中学校区の小中一貫教育

中核となる「東部スタンダード」 あいさつ・準備・思いやり
～あいさつ・言葉づかい / 整理整頓・時間・忘れ物・提出物・家庭学習 / 思いやり・きまり～

平成30年度に取り組む「具体的な4つの取組」と「支える取組」

- ① 学力の向上 → 相互乗り入れ授業 / 「家庭学習の手引」の活用
- ② 体力の向上 → 部活動見学・体験会 / 体力・運動能力テストの交流
- ③ 豊かな心の育成 → 道徳の重点指導項目の指導計画の作成 / 生徒指導交流
- ④ 大志学・総合・特活 → 大志学の全体計画・指導計画の実践 / 旅行行事の指導計画の作成
- ◆ 校区の一貫を支える取組 → 推進委員会・コーディネーター・4部会の推進体制 / 合同研修会
校区の課題調査と取組・成果の評価 / 東部スタンダードの実践プログラム / 一貫便り発行

「できるものを、できることから」、9年間の教育課程のつながりで生きる力を育む東部中学校区の小中一貫教育

◆施設分離型小中一貫校：北広島市立東部小学校・北の台小学校・東部中学校◆

【小中一貫教育推進に向けた取組】

3 成果と今後の取組

- 成果
 - ・児童生徒の状況を検証しながら、目指す子ども像の実現に向けた取組を推進したことにより、中学校区全体の教育活動の質の向上を図ることができた。
- 今後の取組
 - ・客観的なデータや児童生徒アンケートの結果を踏まえ、検証改善サイクルに基づいた小中一貫教育の取組の工夫・改善を図る。

〔安平町〕 追分中学校区の取組

1 中学校区の概要（令和元年度）

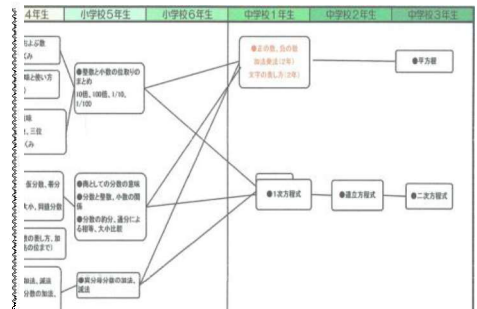
- 学校名（児童生徒数）：安平町立追分小学校（105 人）、安平町立追分中学校（76 人）
- 導入状況（導入時期）：小中一貫型小・中学校（平成 30 年 4 月）
- 施設形態（学年段階の区切り）：施設分離型（6－3）
- 取組のポイント
 - (1) 目指す子ども像の設定・共有
 - ・「目指す児童の姿」「目指す生徒の姿」「地域が求める子どもたちの姿」に基づく、資質・能力の調和のとれた「小中一貫教育で目指す 15 歳の姿」の設定
 - (2) 9 年間を通じた指導計画の作成
 - ・単元や題材で身に付けさせたい力を育成するための「指導のポイント」及び単元や題材のつながりを明確にした系統図「9 年間の学びのつながり」の作成・活用
 - (3) 特色ある取組
 - ・年間 30 回の小学校第 6 学年の中学校登校日の設定、相互乗り入れ指導の推進

2 取組の概要

- 単元や題材で身に付けさせたい力を育成するための「指導のポイント」の作成・活用
 - ・小中一貫教科グループ会議において、小・中学校の教職員が協議し、各教科等の目標・指導のポイントをまとめるとともに、小中一貫推進委員会の中で全教職員による共通理解を図り授業改善に努めた。
- 単元や題材のつながりを明確にした系統図「9 年間の学びのつながり」の作成・活用
 - ・小・中学校の教職員で協議しながら、9 年間の単元と単元のつながりを明確にした「9 年間の学びのつながり」を作成し、小・中学校で互いの学習内容を共有した。
 - ・小学校は N R T、中学校は C R T の結果から定着が不十分な単元について、「9 年間の学びのつながり」に朱書きし、児童生徒が目的を明確にできる学習課題の設定や、9 年間の指導の見通しをもたせた授業づくりなど、指導の改善に結び付けた。

	小学校	中学校
目指す姿	● 児童が主体的に学習に取り組む姿勢を育て、自ら学習する意欲を高める。 ● 学習活動を通して、基礎的な学力を身に付け、学習の楽しさや意義を体験し、自ら学習する意欲を高める。 ● 学習活動を通して、基礎的な学力を身に付け、学習の楽しさや意義を体験し、自ら学習する意欲を高める。	● 生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を育て、自ら学習する意欲を高める。 ● 学習活動を通して、基礎的な学力を身に付け、学習の楽しさや意義を体験し、自ら学習する意欲を高める。 ● 学習活動を通して、基礎的な学力を身に付け、学習の楽しさや意義を体験し、自ら学習する意欲を高める。
指導のポイント	● 児童が主体的に学習に取り組む姿勢を育て、自ら学習する意欲を高める。 ● 学習活動を通して、基礎的な学力を身に付け、学習の楽しさや意義を体験し、自ら学習する意欲を高める。 ● 学習活動を通して、基礎的な学力を身に付け、学習の楽しさや意義を体験し、自ら学習する意欲を高める。	● 生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を育て、自ら学習する意欲を高める。 ● 学習活動を通して、基礎的な学力を身に付け、学習の楽しさや意義を体験し、自ら学習する意欲を高める。 ● 学習活動を通して、基礎的な学力を身に付け、学習の楽しさや意義を体験し、自ら学習する意欲を高める。
学年	4 年生	小学校 5 年生 小学校 6 年生 中学校 1 年生 中学校 2 年生 中学校 3 年生

【「数と式」の目標と指導のポイント】



【「数と式」での 9 年間の学びのつながり】

3 成果と今後の取組

- 成果
 - ・「地域が子どもを育てる」という理念のもと、学校運営協議会や P T A など地域・保護者と連携した教育活動を展開したことにより、地域全体の教育への関心や教育力の向上につなげることができた。
 - ・小・中学校の円滑な接続を実現させることにより、児童生徒の学校生活への安心感を醸成することができた。
- 今後の取組
 - ・授業力向上、学習内容の共通理解を図るため、相互乗り入れ指導、相互授業参観を推進する。
 - ・「地域が求める子どもの姿」の実現に向け、あいさつ運動（おはよう！プロジェクト）や合同清掃等、小中合同行事の活性化を図る。

〔松前町〕松前中学校区の取組

1 中学校区の概要（令和元年度）

- 学校名（児童生徒数）：松前町立大島小学校（25 人）、松前町立小島小学校（26 人）、松前町立松城小学校（117 人）、松前町立松前中学校（114 人）
- 導入状況（導入時期）：小中一貫型小・中学校（平成 30 年 4 月）
- 施設形態（学年段階の区切り）：施設分離型（6－3）
- 取組のポイント
 - (1) 目指す子ども像の設定・共有
 - ・中学校区の全教職員による「9 年間で目指す子どもの姿」に係る協議の実施
 - ・4 校の保護者や地域住民の意見を踏まえた、松前学園（通称）の「目指す子ども像」の設定及び共有化の推進
 - (2) 9 年間を通じた指導計画の作成
 - ・9 年間の系統性・連続性を確保した各教科等の年間指導計画の作成・改善
 - ・小中一貫した学力・体力向上の計画の作成・推進
 - (3) 特色ある取組
 - ・観光教育と伝統芸能教育の 2 つを柱にしたふるさと教育の充実
 - ・書道教育の充実

2 取組の概要

- 観光教育と伝統芸能教育の 2 つを柱にしたふるさと教育の充実

- ・郷土を愛する心情を育むため、地域産業や観光資源、町で受け継がれてきた歴史的背景などを学ぶ、体験的な学習を発達の段階に応じて系統的に位置付けた。



【伝統芸能と関連付けた学習】

【縄文土器の見学】

- 書道教育の充実

- ・平成 22 年度から小・中学校、高等学校で系統性を踏まえた、一貫した書道教育を構築した。
- ・書道に関する興味・関心を高めるとともに、技能の習得が図られるよう、中学校教員による小学校への乗り入れ指導を実施するなど、9 年間の系統性を重視した指導内容の改善・充実を図った。



【中学校教員による小学校への乗り入れ指導】

3 成果と今後の取組

- 成果

- ・小・中学校が一体となった組織体制を構築したことにより、学校間の連携を効率的に行うことができた。
- ・学校運営協議会を合同で開催し、小中の接続を見通した教育課程を編成したことにより、小・中学校の指導内容について共通理解を図ることができた。

- 今後の取組

- ・目指す子ども像の実現に向け、これまでの取組の成果を生かし、小・中学校が一体となった各教科等の指導の充実を図る。

〔八雲町〕落部中学校区の取組



落部小



落部中

1 中学校区の概要（令和元年度）

詳細は学校HPをご覧ください

- 学校名（児童生徒数）：八雲町立落部小学校（81人）、八雲町立落部中学校（63人）
- 導入状況（導入時期）：小中一貫型小・中学校（平成30年4月）
- 施設形態（学年段階の区切り）：施設分離型（6－3）
- 取組のポイント
 - (1) 目指す子ども像の設定・共有
 - ・各学校における9年間の児童生徒の成長に関する保護者の願いの把握
 - ・小中合同の協議による、発達の段階を考慮した目指す子ども像の設定・共有
 - (2) 9年間を通じた指導計画の作成
 - ・中学校数学、英語、音楽の教科担任による小学校第5・6学年の児童を対象にした乗り入れ指導の実施
 - ・小学校の学級担任による中学校第1学年の数学の授業への乗り入れ指導の実施
 - (3) 特色ある取組
 - ・八雲町教育委員会が主催する「八雲町確かな学び推進会議」において取組事例の発信

2 取組の概要

- 中学校数学、英語、音楽の教科担任による小学校第5・6学年の児童を対象にした乗り入れ指導の実施

- ・小中共通の課題項目として、基礎的・基本的な学力の定着・向上、学習への主体的な取組等を重点として設定し、それぞれの学校の校内研修等で具体的な指導の手立てを明らかにするとともに、中学校教員による乗り入れ指導（算数、英語、音楽）を実施し、9年間の指導方法の確立を図った。



【基礎的・基本的な学力の向上を目指した授業改善】

- ・検証改善サイクルの確立が図られるよう、「授業の内容がよく分かる」「授業に集中して臨んでいる」「授業で進んで発言している」の3つを小中共通の評価指標とし、発達の段階を踏まえた目標値を設定した。



【9年間を見通した授業改善の取組】

- 小学校の学級担任による中学校第1学年の数学の授業への乗り入れ指導の実施

- ・ユニバーサルデザインの視点を生かした教室環境の整備を進めるとともに、個に応じた指導の充実に向け、小学校の学級担任が中学校で乗り入れ授業を実施した。

9年間を見通した「算数・数学カリキュラム」の特徴

- ・小中学校教員の相互乗り入れによるTT指導の工夫（小学校第5・6学年算数、中学校第1学年数学）
- ・小中の指導をつなげるコーディネーター的役割
- ・授業のユニバーサルデザイン化
- ・既習学習の板書や提示物等を写真データ化したものを活用し系統的に学ぶ。
- ・年間指導計画に記載した苦手分野の情報を共有し指導の改善につなげる。

【9年間を見通したカリキュラムの作成】

3 成果と今後の取組

- 成果

- ・小・中学校の指導内容の系統性について共通理解を図ったことにより、教職員の指導方法を工夫改善する意欲を高めることができた。
- ・各学校の取組のよさを共有したことにより、取組をより発展させようとする気運を高めることができた。

- 今後の取組

- ・課題項目の解決に向け、校内研究の内容を見直すとともに、小・中学校の連携した取組の充実を図る。

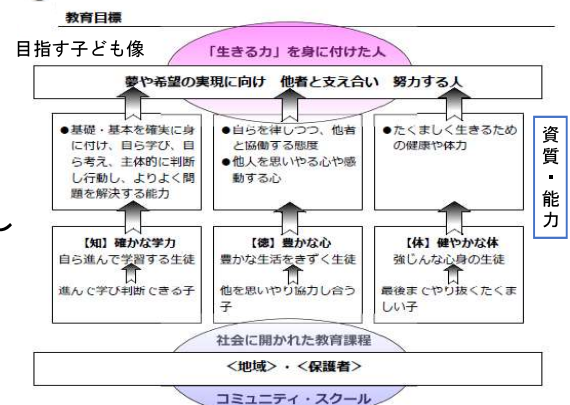
〔白糠町〕白糠中学校区の取組

1 中学校区の概要（令和元年度）

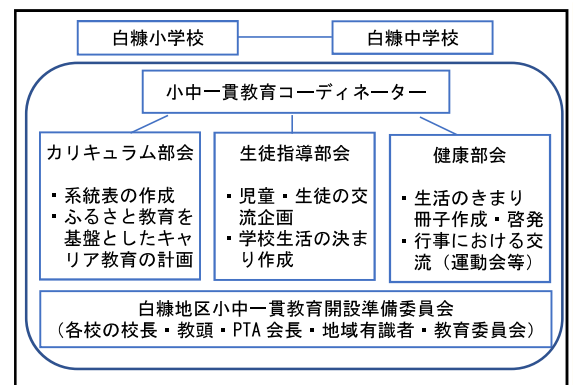
- 学校名（児童生徒数）：白糠町立白糠小学校（144 人）、白糠町立白糠中学校（93 人）
- 導入状況（導入時期）：小中一貫型小・中学校（平成 30 年 4 月）
- 施設形態（学年段階の区切り）：施設分離型（6－3）
- 取組のポイント
 - (1) 目指す子ども像の設定・共有
 - ・各種調査等の結果に基づく目指す子ども像の設定と育成する資質・能力の重点化
 - ・目指す子ども像の共有・具体化を図る組織の見直し及び家庭・地域との連携
 - (2) 9 年間を通じた指導計画の作成
 - ・各教科等の系統性を明確にし、重点的に指導する単元や予想されるつまづきを位置付けた指導計画の作成
 - (3) 特色ある取組
 - ・小・中学校共通の研究主題の設定及び合同研修の実施

2 取組の概要

- 各種調査等の結果に基づく目指す子ども像の設定と育成する資質・能力の重点化
 - ・各種調査等や児童生徒、教職員、保護者アンケートの結果を踏まえ、「小中合同研修会」において、義務教育 9 年間を見通した目指す子ども像を設定した。
 - ・「夢や希望の実現に向け 他者と支え合い 努力する人」という目指す子ども像の具体化を図るため、各種調査等の結果を分析し、育成する資質・能力を重点化した。
- 目指す子ども像の共有・具体化を図る組織の見直し
 - ・目指す子ども像の共有・具体化を図るため、小・中学校合同の「一貫教育推進部」に、「カリキュラム部会」「生徒指導部会」「健康部会」の 3 部会を設定するとともに、「一貫教育コーディネーター」を中心に全教職員の共通理解のもと、取組を推進した。
- 家庭・地域との連携
 - ・家庭・地域と目指す子ども像を共有し、小中一貫教育を推進するため、平成 28 年度から校長・教頭や地域の有識者、教育委員会職員等を構成員として、「白糠地区小中一貫教育開設準備委員会」を設けた。
 - ・「小中一貫教育推進グランドデザイン」を全家庭と学校運営協議会に配付し、取組を説明した。



【目指す子ども像と資質・能力の重点化】



【小中一貫教育を推進するための組織】

3 成果と今後の取組

- 成果
 - ・小・中学校の教職員が 9 年間の取組のゴールを意識して指導するとともに、学校・家庭・地域が連携した取組の充実を図ったことにより、小中一貫教育を推進する基盤を整備することができた。
- 今後の取組
 - ・目指す子ども像の実現に向け、取組を検証し、それぞれの活動のねらいを一層明確にする。